

# 2016 年度 名古屋大学 前期 英語

## I

出題範囲	長文読解
難易度	★★★★☆
所要時間	30分
傾向と対策	本文が 2015 年度に比べて長く、設問の中に文の並び替え問題もあるので、読むべき量は多い。問題 4 は解答にあたる部分を見つけそれをまとめるという作業がやや難しかった。また、問題 6 では文構造自体はそこまで難しくはないが elicit などの単語が使われ、完全な訳をつくることに苦労したかもしれない。全体的に見ると、飛びぬけて難しいというわけではないが、少し戸惑うところもあるような問題だった。

### 本文訳

読むという行為がどれほど複雑なものであるかということは、必ずしも実感されているわけではない。子どもたちは読み方を学ばなければならないが、ほとんどの子どもは容易に、そして比較的手間をかけずに習得する。そして、もし読むということがほとんどの若者や大人にとって深く身についた習慣であるなら、読む能力を測ることよりも簡単なことがあるだろうか？ ある文章をもってきて、その文章についていくつかの質問をすれば、読む能力を測る有効なテストができあがるだろう！ しかし、それはそんなに単純なことではないのだ。実際、ある人の読む能力を評価することは複雑な過程を踏むものであり、読むということはおそらく一般的に考えられているよりもはるかに複雑である。有効なテストを開発するには、読むことがどのようなものを含んでいるのかを知らなければならない。

明らかに、読むということは印刷物から意味をつかむということを含むが、人はどのようにして「意味をつかむ」のだろうか？ 読むということが単語を認識することを含み、そして単語の認識は印刷されているものを音声に関連づけることを含むということは、一般的に認められていることだ。アルファベットを用いる言語において、このことは文字を音声に結びつける能力を意味する。しかしながら、文字と音声の関係は、1対1に対応しているとは限らない。フィンランド語やスペイン語のような、いわゆる平明正書法では、程度の差はあるものの確かに文字と音声の間に1対1の対応関係が存在している。しかしながら、英語やフランス語のようなほかの言語は、難解正書法として知られるものであり、文字と音声の間関係ははるかに複雑なものとなっている。日本語のひらがなやカタカナのようなほかの正書法では、個々の音ではなく音節を表し、中国語のような表語文字による正書法では、記号と音声の間に直接の関係はなく、むしろ文字が語を表しているのだ。

しかし読むということは、「ただ単に」印刷物を通じて言語の音声を認識するだけではないのだ。意味を伝達するには言語の文法が重要となってくる。文章は単なる単語の寄せ集めではない。なぜなら文章には構造があり、その構造は言語の文法や文および段落レベルの構成ルールによって支配されているからだ。文章の意味は単に組

み合わさった単語の意味ではない。読み手はその文章に対する理解を深めるために、自身の世間に関する知識を文章に適用しなければならない。<sup>(1)</sup> しかしながら、読み手はまた、はっきりとは述べられていないが、隠されてはいてもその文章の中に読み取れると読み手が同意することができる意味を推測できなければならない。文章を理解するということは、はっきりと述べられていることを認識するだけでなく、推論し、主観的な解釈をすることを含んでいるのだ。

意味や理解は、さまざまな程度にしばしば区別される。文字通りの理解、推測された意味、包括的な理解などである。意味の「テキストモデル」および「状況モデル」に言及することもまた、次第に一般的になっている。テキストモデルとは、文章の書き手が読み手に理解させるように意図したものである。一方、状況モデルは読み手が自ら文章中からつくり出した意味を表している。したがって、<sup>(2)</sup> 文章はただ単に、読み手によって文章中から「掘り出される」ような意味を含んでいるだけでなく、読み手の頭の中で意味を生じさせ、そして読み手がつくり出したそれらの意味は、読み手の読む目的、世間に関する知識、そして批判的に考える能力を含んだ数多くの要因によって変わってくるのだ。

過程と産物の間で区別をつけることは、役に立つことであり、そしてかなりよくあることだ。読むことの産物は一般的にはある人が何を理解したかということだ。例えば、ある人の読解問題に対する答えや、その人が読んだ文章の要約などに見られる、ある人が示す理解力である。一方で読むことの過程は、通常は静かで、目に見えず、読み手の内面に存在しており、外側からはめったに見ることができない。また、読むことの過程はその産物よりも、より変わりやすいものである可能性が高い。理解した内容は異なる個人や場合の間で同じになることがあるかもしれないが、ある人が特定の理解にどのようにたどり着いたかは異なる個人や場合の間で変わってくる可能性が高い。

もちろんこのことは、産物が個人間で決して変わらないことはないのと同じように、過程が必ず産物よりも変化に富んでいるということをいいたいのではない。2人の人間が同じ文章に対して、まったく異なる意味や理解を示すことがあるということはよく知られた話だ。それは状況モデルの概念が示していることである。そしてテキストモデルも、産物が一義的であるということを必ずしも示しているわけではない。実際、文章の作者は、その人が書いた文章を読むことで正当に生み出されうるすべての理解の仕方の可能性をおそらく把握してはいないだろう。

過程と産物の間で区別をつけることは、読むことと読むことに関わる問題について研究するうえで大変役に立つ。研究者は読み手が何を理解し、あるいは誤解したのか、そしてなぜそのような理解に至ったのかということを知りたがっている。問題は、ある人が何を理解したかということ、研究者がどのようにして読み手の理解（誤解）を引き出したかによって左右されるかもしれない、ということだ。典型的な例としては、読解力の測定において選択形式の問題を用いるということがある。そのテストでは、不正解の選択肢が不注意な読者を混乱させることを意図してつくられている。<sup>(3)</sup> 産物、つまり理解が何かほかの方法で、例えば2語あるいは3語の答えを求める問題によって引き出されていたならば、（引き出される）理解内容は違っていたかもしれない。実際、理解力を測るいかなるテストも、情報を得るために読む人や、楽しみのために読む人がたどり着く理解を必ずしも明

らかにするわけではないと主張する人もいる。問題は、ほかにどのようにしてより自然に、より読み手に対する影響が少ない方法で理解した内容を引き出すかということなのだ。

### 解説

#### (1) 正解は C

##### 選択肢訳

- (A) 大人はしばしば、本を読むことがいかに難しいかということに驚く。
- (B) ほとんどの状況において、読むことは書くことよりも難しい。
- (C) 読むという行為がどれほど複雑なものであるかということは、必ずしも実感されているわけではない。
- (D) 親はしばしば、子どもが早い段階で読めるようになるために、熱心に読み方を教える。
- (E) 読む能力を向上させる方法はたくさんある。

空欄が第1段落の最初にあることから、この空欄に入る文はこの第1段落の内容を反映している文になっていると考えられる。入れるべき文を判定するためには最初の段落の内容を把握し、それぞれの選択肢を吟味していくとよいだろう。

まず、第1段落の内容については全訳を参照してもらいたいが、この段落のキーセンテンスは第5文「しかし、それはそんなに単純なことではないのだ。」の部分である。ここがこの段落で最もいいこととなっている。この文の前では、子どもが簡単に読み方を学ぶこと、そして読むという行為が深く身についた習慣であるがために、その能力を測るテストも簡単につくれそうだと述べている。そしてその文のあとでは読むことが、そして読むことを評価することが、実際は複雑であるといっている。

この段落を読んで「読むっていうのは単純そうで、実は意外と複雑なんだね！」くらいのイメージをもって選択肢の吟味に入るとよいだろう。

- (A) 「本を読むことがいかに難しいかということに驚く」という部分は一見第1段落の主旨を反映しているように思えるが、「大人がしばしば驚く」ということに関連した記述が第1段落では見られない。また、第1段落では一般的な読むということについての話がされており、本だけに焦点を当てた記述は見られず、最初だけ本に関することが出てくるのは不自然である。よって(A)は不適切である。この選択肢を捨てきれない人は、いったん保留にしたあとに消去法で消してもよい。
- (B) 第1段落中では読むことと書くことの比較はおろか、書くことそのものについての記述がまったく見られないので、(B)は不適切である。
- (C) 「読むことがどれほど複雑か、必ずしも実感されているわけではない」という内容である(C)は、第1段落の主旨である「読むことは一見単純そうだが、実は思われているより複雑だ」という内容と対応する文となっており、第1段落の内容を簡潔に反映している点で、空欄に入れても自然な文脈となりえる。よって正解は(C)である。

- (D) 確かに第 1 段落の第 2 文で、「子どもが読めるようになるために学ぶ」ということに関連する記述が見られるが、これは読むということが一見単純に見えることに対する例示として言及されているだけで、親が子に熱心に読み方を教えるということに関連する記述は第 1 段落内に見られない。よって(D)は不適切である。
- (E) 第 1 段落中では読む能力を測ることについては言及されているものの、読む能力を向上することに関してはまったく述べられていない。また、ここでの中心的な話題は「読むこと」それ自体についてであり、人の読む能力に主眼が置かれているわけではない。よって(E)は不適切である。

(2)

**解答例**

文字と音声の対応関係は言語によってさまざまであること。(25 字)

設問中で挙げられているさまざまな言語に関する言及は第 2 段落の第 5 文から第 2 段落の最後まで続いている。この部分において、orthography という語が何回も出てきており、例えばフィンランド語(Finnish)は transparent orthography、中国語は logographic orthography などというように、言語によって orthography が異なっていることがわかる。ではこの orthography が何かというと、その日本語は「正書法」となるが、日本語にしてもあまり意味はわからないだろう。注では the spelling system of a language「言語のつづり方の体系」となっていることから、ある程度の雰囲気はつかめると思うが、ここはこの orthography にこだわらずにそれ以外でなされている説明に着目する。それぞれの言語に対する説明を列挙していく。

- ・フィンランド語・スペイン語：文字と音声がいいたい 1 対 1 の関係
- ・英語・フランス語：文字と音声の関係ははるかに複雑
- ・日本語：個々の音ではなく、音節を表す（この説明は難しかったかもしれない）
- ・中国語：記号と音声の間に直接の関係はなく、文字が語を表している

これらの説明を見てわかることは、言語の文字と音声の関係について述べられているということだ。さらに、これらの例示がされている直前の第 4 文を見ると「文字と音声の関係は、1 対 1 に対応しているとは限らない」と書かれている。以上のことから、著者がこれらさまざまな言語に言及した理由としては「それぞれの言語で、文字と音声の対応関係は全然違う」ということを示したいからだといえる。これを簡潔にまとめて解答を仕上げればよいだろう。

(3)

**解答例**

しかしながら、読み手はまた、はっきりとは述べられていないが、隠されてはいてもその文章の中に読み取ることができる読み手が同意することができる意味を推測できなければならない。

まずこの英文中では、readers also ~ infer meanings が主節となっており、そのあとに that are ~, but which ~ の従属節が主節の中の meanings にかかっている。まずは主節を訳していき、従属節の部分の訳をあとからつけ足していく形でよいだろう。

・ However, readers also have to be able to infer meanings

infer は「推測する」という意味である。それ以外はあまり難しいことはないだろう。訳としては、「しかしながら、読み手はまた意味を推測できなければならない」となる。ここに「意味」というのがどのようなものかと説明されている従属節の訳をつけ足していく。

・ that are not explicitly stated

explicitly 「はっきりと」、state 「述べる」という意味になるので、この部分の訳は「はっきりとは述べられていない」(意味)となる。

・ but which readers can agree are available, though hidden, in the text

though hidden は but which ~ の節の中に挿入されている形となっている。(meanings) are available in the text は直訳すると「文章中で手に入る」となるが、これはどういうことかということ「文章の中で、そのように読み取ることができる意味」であろう。つまり、言葉の直接的な意味としては示されていないものの、文脈や筆者の意図などから読み取ることが可能な、隠された意味ということだ。そのニュアンスを出す訳として、解答では「その文章の中に読み取ることができる」とした。though hidden はこれにかかる形で挿入されており、「隠されてはいるものの」と訳することができる。

which readers can agree are available の部分については、readers can agree that meanings are available in the text という形の文に対して、meanings が先行詞として前に来て、先行詞に対する関係詞 which がつくられ、that が消える。これによって、連鎖関係代名詞節ができあがっている。

以上を踏まえたうえで、この部分の訳としては「(はっきりとは述べられていない)が、隠されてはいてもその文章の中に読み取ることができる読み手が同意することができる (意味)」となる。

以上を組み合わせると解答にまとめればよい。

(4)

**解答例**

文章には書き手が読み手に理解させるように意図した意味に加え、読み手が各々の目的や世間に関する知識、批判的思考力などによって頭の中に作り出す多様な意味もあるから。(80 字)

下線部の訳は「文章はただ単に意味を含んでいるだけでない」となる。これがどういう意味か、そしてなぜこのようなことがいえるのかを理解するために、まずこの下線部が含まれている文を見てみよう。すると、文頭に Thus 「したがって」がついている。この文が直前の文で述べられている内容を受けているということだ。その直前の文は、意味の「テキストモデル」と「状況モデル」について説明している。「テキストモデル」とは書き手が読み手に理解させるよう意図したもの、「状況モデル」とは読み手が文章から作り出した意味のことである。ここからすでに、文章がただ単に意味を含んでいるだけではない理由がうかがえる。つまり、文章中の意味には「書き手が想定しているもの」と「読み手が（読み手の解釈などによって）作り出すもの」の 2 種類があることをいっている。そして Thus から始まっている文を見ると、この文では直前で説明されている意味の 2 つの種類について、議論を発展させている。この文を詳しく見ると、下線部内の meaning には非制限用法で which がかかっている。そして meaning, which is to be ‘mined’ from the text by a reader 「読み手によって文章中から『掘り出される』ような意味」は「テキストモデル」に対応しており、meanings in the head of the reader ～ は「状況モデル」に対応している。文の構造から、簡単にいうと「文章は単にテキストモデルの意味を含んでいるだけでなく、状況モデルの意味を含んでいる」という内容となっている。こういうわけで「文章はただ単に意味を含んでいるだけでない」のだ。解答としては、「文章中の意味が、書き手によって想定されている、いわゆる一般的に「意味」といわれるもの（テキストモデル）だけでなく、読み手によって作り出されるもの（状況モデル）もあるから」というのが、基本的な方向となるが、これだけでは内容がすかさず 80 字の記述としては物足りない。そのため Thus から始まっている文の内容を解答に盛り込む必要がある。

解答のまとめに入るが、まず、解答の基本的な形である「文章には～だけでなく、～もあるから」の「～だけでなく」には、「テキストモデル」の説明で使われている「書き手が読み手に理解させるように意図した意味」を用いる。「～もあるから」のほうは meanings in the head of the reader ～ の内容をまとめる。意味が読み手によって作り出されるということ、そしてそれは読む目的などのさまざまな要素が背景にあること、これらが盛り込まれる必要があるだろう。ここで注意したいのは、「テキストモデル」に対応している部分では meaning が単数形に、「状況モデル」に対応している部分では meanings と複数形になっているということだ。これは、前者の meaning が書き手によって想定されている（ほぼ）1 つの意味に対し、後者の meanings は読み手によって作り出される「多様な」意味を指している。このニュアンスも解答に含めたい。

以上をまとめて解答を組み立てよう。

(5) **正解は B→D→C→A**

(A)から(D)の中に頻繁に、そしてすべての選択肢において出てくる言葉がある。process と product である。

これら 2 つの概念が、この問題を解くうえで重要となってくる。

(A)から(D)を見ていくと、(C)と(D)が同じような構造となっている。両方とも The \_\_\_ of reading is ~ という形から始まっており、読むことにおける product と process が説明されている文となっていることがわかる。また、(C)には on the other hand が入っていることから、順番的には(D)よりもうしろに来ることがわかる。ところで(D)は最初に来る文ではない。なぜなら、1 個前の段落では意味の「テキストモデル」と「状況モデル」が話題となっており、product と process の話が出てきていない。文脈的にいきなり product と process の説明が始まるのは不自然である。次に(A)を見ると、文の初めのほうで also が使われており、このことから(A)の前に product と process の話題が来ていなければならないと考えることができる。よって、消去法的に(B)が最初に来る文である。(B)では product と process の両概念を登場させており、2 つの区別をすることが有用で、よくあることだといっており、この両概念に関する内容の導入となっている。

(B)の次に来る候補としては(A)と(D)である。(A)では process が product よりも変化に富んでいるといっている。仮に(A)を(B)のあとに置いた場合、全体の順番としては(B)→(A)→(D)→(C)となる。しかし、(A)で process と product の比較をした話をしていながらもかかわらず、そのあとに product と process のそれぞれの説明をするのはいささか不自然である。よって、(B)のあとに来るのは(A)ではなく、(D)であると考えられる。(D)の次は、やはり(A)よりも(C)が来るほうが自然だろう (process の説明だけ(A)のあとにもってくるのは不自然だ)。したがって、全体の順序は(B)→(D)→(C)→(A)となる。

(6)

**解答例**

産物、つまり理解が何かほかの方法で、例えば 2 語あるいは 3 語の答えを求める問題によって引き出されていたならば、(引き出される) 理解内容は違っていたかもしれない。

下線部の英文は仮定法過去完了を用いた文となっており、if 節において if が省略されて SV に倒置が起こり、疑問文と同じ語順になっていることを確認しよう。Had the product ~ or three-word answer の部分が条件節となっており、それ以降が主節である。

・ Had the product ~ or three-word answer

product とは第 5 段落から登場している「読むことの産物」のことである。そしてカンマで the understanding 「理解」とつながれており、これによって product の補足的説明をしている。elicit は「(情報などを) 引き出す、聞き出す」という意味である。この単語は多くの人にとっては難しかったかもしれない。means は「手段」という意味を表す単語であり、for example 以下で some other means に対する例示をしている。以上を踏まえて、この部分の訳は「産物、つまり理解が何かほかの方法で、例えば 2 語あるいは 3 語の答えを求める問題によって引き出されていたならば」となる。

・ then the comprehension may have been different

then は if 節と呼応して、「(もし～ならば) その時[場合]は」という意味を表すが、前の部分の「～ならば」の中にこのニュアンスが含まれているので、特に訳出する必要はない。

ここで、the comprehension が何を指しているのかということを考える。下線部では、選択肢問題ではなく記述問題で読解力を試した場合、the comprehension が異なるかもしれない、ということが書かれている。つまりここから考えられることは、おそらく文章を読んだときに読者の頭の中に何らかの理解があって、それに対して異なるタイプの読解問題を適用すると、引き出される理解内容が異なってくるということだ。そのため、この部分の訳は、「引き出される理解内容は違っていたかもしれない」が1番文脈を示し出したものとなるが、「引き出される」の部分は意識であるため、この部分を書かずに「理解内容は違っていたかもしれない」とだけ書いても和訳問題としては十分だろう。

以上を組み合わせることで解答を作成しよう。

### 表現

adolescent 「若者」

valid 「有効な」

denote 「意味する, 表す」

syllable 「音節」

logographic 「表語文字の」

infer 「推測する」

explicitly 「はっきりと, 明確に」

draw inferences 「結論を出す, 断定を下す, 推論する」

unitary 「単一の」

legitimately 「正当に, 合法的に」

elicit 「(情報などを) 引き出す, 聞き出す」

invasive 「<sup>しんしゅう</sup>侵襲的な」

(松永尚也, 松永悠希)



# 2016年度 名古屋大学 前期 英語

## II

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	25分
傾向と対策	文章はそこまで難解ではなく、比較的読みやすかった。和訳の箇所も構文の発見が容易で解きやすかったのではないだろうか。文補充は単純な問題なのでぜひとも得点してほしいが、(4)の動詞の選択の問題は少し難しかったかもしれない。

### 本文訳

ミシガン州立大学の博士課程の大学院生カテリ・ソークによる次の記事を読んで、以下の問いに答えなさい。  
\*でマークされた単語は注釈を参照せよ。

私が子どもだった頃、親は私のことを魚と呼んだ。(1)できることなら、私は陸上よりも水中でより長くミネソタ州の夏を過ごしただろう。子どもの頃経験した湖は非常に多くの素晴らしいものを秘めていた。肌への冷たい感覚、水中を住処にする生き物たち、こうした生態系がより広い世界の隠された意味を秘めているというはっきりした印象などなど。

実際、水は確かに地球の仕組みについての我々の理解の大部分のカギを握っている。1滴の水滴は大気、生命体、地下の空洞、激しい滝、広大な海や、その他の多くの場所をあらゆる組み合わせで旅する。淡水系は陸と外洋の間に必要不可欠なつながりとなっている。人間の文明でさえ、ほぼすべての側面で水の利用をめぐって動いている。

しかし、この重要な役割とともにますます多くの問題が生じている。農場、家庭の芝生、都市部からの流水は養分や汚染物質の混合物も一緒に運ぶ。この流水が水域に届くと、有毒なアオコ、酸素不足、魚類の減少を引き起こすことがある。水中の生態系は根本的な変化を遂げつつあり、こうした変化の原因と仕組みを理解するほど、それをうまくコントロールできるようになる。

あの魚の少女の話に戻ろう。彼女は現在この変化しつつある世界で自分の居場所を見つけて、水に対する興味を水の研究の仕事に取り込んでいる。彼女は大学院生として先ほどの水滴を、世界を舞台に追跡する機会を手に入れている。

私の研究は水系における窒素の役割に注目している。ほかの養分と同じように窒素はあらゆる生物細胞に必要な不可欠な要素である。しかしあまりに多くなると窒素は今日の水域をむしばむ数多くの問題の一因となりうる。私の目標は生命体による窒素摂取と、余分な窒素が水系から取り除かれる仕組みをより深く理解することである。

る。2つ目の窒素除去は余分な窒素を処理する機会になるかもしれない。

窒素除去の仕組みは以下のとおりである。水中や沈殿物中に存在する微小なバクテリアがその窒素をむしゃむしゃと食べ、窒素を有害になりうる化学組成からより不活性な化学組成に変化させる。この作用が起こる度合いや経路はさまざまな環境要因に左右される。<sup>(2)</sup> 研究を通して私はこうした要因がどのように絡み合っているのかについてより優れた見方を手に入れたい。そして水域の水質管理を改善できることを期待している。

このことについて私が魅了された点は相互関係というどこまでも続くテーマである。窒素の変化過程はほぼすべての水中生態系で発生しており、その影響はその農場からはるばる大海原にまで達する。したがって私の研究は私をミシガンの湖や湿地から五大湖、さらにはオーストラリアの海岸にある海藻の生態系にまで連れ出した。

小さな魚の女の子は成長した。彼女はサーフボードに乗ったり、スキューバタンクを背中に乗せたりして水中を探索する新たな方法を採用している。おそらくもっと大事なことは、彼女が水に対する興味を、水質によい影響を与えられるかもしれない職業の中に取り込んだことだろう。研究を通して彼女はこの複雑に絡み合った地球で水中の生態系が果たす役割をもっと明らかにしようとしている。

### 解説

(1)

### 解答例

できることなら、私は陸上よりも水中でより長くミネソタ州の夏を過ごしただろう。

### 問題文訳

(1)から始まる下線部を和訳しなさい。

Given the choice は仮定の意味をもつ分詞構文であるため仮定法ではないかと思当をつける。そこで I would have と続くため仮定法だと確定する。よって Given the choice は If I were given the choice の省略と考えてよいことになる。直訳すると「選択肢が与えられたら」となり、そのままでもいいのだが、実際に選択肢 A と B を突きつけられるわけでもないのだから、より自然な日本語らしくするために「選べるのなら、できることなら」といった意識にもち込みたいところだ。ちなみに解答に書く必要はないが選択肢とは、陸上でより長く過ごすか、水中でより長く過ごすか、というものである。

厄介なのはそのあとの比較表現である。

spent [more of my Minnesota summers] [in the water] than [out of it].

上のように、out of it という状況よりも in the water という状況のほうで more of my Minnesota summers を過ごした、というのがこの比較表現の大枠である。out of it の it は当然 water のことなので「水の外」すなわち「陸上」のことである。つまり陸上にいるよりも水中でミネソタ州の夏を過ごす時間のほうが長くなるということだ。何と何が比較されているのかと、どのような点で比較されているのかをそれぞれを区別して考えなければならぬ。

(2)

**解答例**

研究を通して私はこうした要因がどのように絡み合っているのかについてより優れた見方を手に入れたい。そして水域の水質管理を改善できることを期待している。

**問題文訳**

(2)から始まる下線部を和訳しなさい。

hope to V は want to V のように「V したい」と訳せばよい。perspective は「(全体を俯瞰するうえでの) 見方, 観点」という意味なので, gain a better perspective on は「~についてのより優れた見方を手に入れる, ~についてもっとうまく見通せるようになる」などといった意味になるだろう。with the hope of は「~ということを期待しつつ」という意味で「~したい」という意味ではないので気をつけよう。訳し上げるとわかりづらい日本語になるので解答例では訳し下した。manage とは「管理する, 処理する」といった意味であるので better managing the health of water bodies は「よりよく水域の健康を管理する」と訳せる。このままでは少しぎこちないので「健康」を「水質」, 「よりよく管理する」を「管理を改善する」と言い換えるとよい。なお, water body は1つのまとまりをもった水の集合体という意味で, 日本語では「水域」と訳せる。いざ日本語に直そうとすると難しい単語なので「海や湖沼」といったように訳すのもありかもしれない。

(3) **正解は A④ B② C① D③****問題文訳**

A から D までの空欄を埋めるために, 下記のリストから最も適切な文を選びなさい。各空欄につき 1 つの文のみを選びなさい。

- ① 窒素除去の仕組みは以下のとおりである。
- ② あの魚の少女の話に戻ろう。
- ③ このことについて私が魅了された点は相互関係というどこまでも続くテーマである。
- ④ しかし, この重要な役割とともにますます多くの問題が生じている。

文補充の問題は文章全体の流れを理解していないと解けないことが多いので, 文章の流れを振り返りながら選択肢を吟味していくことにする。

第 1 段落では筆者の幼少期の水との触れ合いが語られ, 第 2 段落では水というのが地球の仕組みを理解するカギになっていると述べられる。A を除いた第 3 段落の内容を見ると, 人間の生活圏から流れ出た水が水域に悪影響を及ぼすことがあると述べられたあとで生態系の変化を理解する必要性が主張されている。ここで A の選択肢を吟味すると, ④の「しかし, この重要な役割とともにますます多くの問題が生じている。」というのが第 3 段落に述べられている環境問題にうまくつながり, 第 2 段落の水の役割の重要性の内容もうまく引き継いでいるので, ④が正しいと見当をつけることができる。もちろんここで選択肢を決定せずにほかの部分を見ながら決

めていってもよい。

Bを除いた第4段落は「彼女」という存在が水の研究に自分の居場所を見出し、大学院生として世界を飛び回っていると述べられる。1人称ではないので戸惑った人もいるかもしれないが、これは筆者自身のことをいっているのは間違いないだろう。Sheという表現を使った理由は幼いころの自分をいまの自分とは違う存在だとみなし、物語の中の人物を見るように客観視しているからだと思われる。そこでBの選択肢を考えると、②に「あの魚の少女の話に戻ろう」と書かれていてSheの指すものを明確にしているのが正解だとわかる。ほかの選択肢にこのSheが何を指すかわからず説明できるものはない。

第5段落では筆者の研究が窒素に関するものだと紹介され、第6段落でもその話題が続いている。そこでCの選択肢を考えると①にはっきりnitrogenと書かれていて、窒素が除去される過程を説明している第6段落の導入として適切である。

残った選択肢は③となり、これがDに入るか確認すればよい。③はinterconnection「相互関係」が筆者の興味を強く引いているという内容であり、Dの直前の文にhow these factors interactと相互関係について書かれており、それについて筆者が理解を深めたいと述べていることから適切な選択肢といえる。

以上より、答えが決定する。

(4) 正解は ① revolves ② plaguing ③ illuminate

問題文訳

空所①, ②, ③を埋めるために、下記のリストから最も適切な単語を選びなさい。ただし、どの単語も1度しか用いてはならない。必要ならば文脈に合うように単語の形を変えなさい。

- ・ 明らかにする
- ・ 損害を与える
- ・ 浄化する
- ・ 再生する
- ・ 回る
- ・ 沈む

## ①

第 2 段落は水が地球のはたらきに大きな役割を果たしているというのがテーマである。そこで空欄の文を考えたと「人類文明でさえ水の利用の周りを①している」となっており、段落の文脈に合致するような動詞を選ぶと、revolve around A「A を中心に回る」が目に入るだろう。文法的な説明をすると、空欄の直後に前置詞 around が続くので他動詞は入らず、regenerate, revolve, sink の 3 つに絞られるが、regenerate around, sink around のような表現は存在せず、文脈に合致するような解釈もできない。よって「人類文明が水資源の利用を中心として回っている」という趣旨になる、revolve が入る。なお human civilization は 3 人称単数なので revolves に変形する必要がある。

## ②

第 5 段落では著者の研究の焦点が窒素に当てられていることが述べてある。窒素は生態系の重要な要素であるが、あまりに多いと逆に害をなす。空欄のある文を見てみると、nitrogen can contribute to the numerous problems ですでに文が完成している。そこで( ② ) water bodies today は the numerous problems の後置修飾ではないかと考えが至るだろう。そのように考えると、the numerous problems は water bodies に悪い影響を与えるはずなので、plague「損害を与える( <sup>むしば</sup> む、苦しめる)」が適切であるとわかるはずだ。illuminate や regenerate ではまったく意味がとおらないし、purify はまったくの逆の意味になってしまう。sink は自動詞のため文法上空欄に入れることができない。なお、後置修飾のため plaguing に変形する必要がある。plague は「疫病」という名詞が有名だが、動詞も存在する。知らなくても十分推測可能な意味なので、あまり問題はなかっただろう。

## ③

研究を通して彼女、すなわち筆者が何をしたいのかという理解を問う問題である。実は下線部(2)でほぼ同じ形の構文が使われており、全訳を参照すればわかるとおり、筆者は研究を通して自然環境のさまざまな要因がどのように絡み合っているのかを解明したいと思っている。そこで空欄に立ち戻ると、「複雑に絡み合った地球における水中の生態系の役割を③したい」と書いてあるので、③には「解明する」といった趣旨の動詞が入るはずだ。それにふさわしい動詞は illuminate「明らかにする、解明する」しかない。以上で答えが定まる。hope to のあとは動詞の原形が入るので変形の必要はない。

**表現**

doctoral student 「博士課程の大学院生」

given the choice 「選べるのなら」

wonder 「不思議なこと, 素晴らしいこと」

feel 「感触」

droplet 「小滴」

journey 「旅する」

hollow 「空洞」

open ocean 「広い海, 大海原, 外洋」

runoff 「表面流水」

a cocktail of A 「A の混合物」

algal bloom 「アオコ」

uptake 「摂取」

sediment 「沈殿物, 堆積物」

munch 「むしゃむしゃと食べる」

captivate 「魅了する」

illuminate 「解明する」

plague 「蝕<sup>むしば</sup>む, 苦しめる」

regenerate 「再生する」

revolve around A 「A を中心に回る」

(佐藤寛司, 松永悠希)

## 2016 年度 名古屋大学 前期 英語

### III

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	30分
傾向と対策	文章の内容は比較的理解しやすかったように思う。扱われている単語や表現も標準的なものがほとんどだった。ただ、2や3の用語説明が難しかった。語数が指定されているためなるべく短く表現しなくてはならなかった。こういうときにはまず日本語で下線部を説明し、その説明文をどんどん削っていったから最終的に英語に直すようにすると解きやすい。(4)の空欄補充問題は基礎的なものだったので、すべてできるようにしてもらいたい。

#### 本文訳

サラは名古屋大学に1年間留学しているイギリスの学生です。彼女は日本人学生ケンジと大学図書館の本館前で話しています。会話文を読み、下記の質問に答えよ。

サラ : やあ、ケンジ。調子はどう？ 少し息切れしているようだけど。

ケンジ : やあ、サラ。アパートから自転車でやってきたところだからね。

サラ : そんなに疲れることかしら？ ここからたったの2マイルくらい離れたところに住んでいるんですよ？

ケンジ : そうだけど、自転車に乗るのなんて小学生以来なんだ。

サラ : それじゃあ、ちょっと脚がなまってるわけね。

ケンジ : そうともいえるね。それにここら辺は坂が結構多いだろ？

サラ : そうね。

ケンジ : でも僕は続けることにしたんだ。

サラ : なんで？

ケンジ : 自転車に乗るとたくさん利点があるからね。

サラ : 運動するにはいい方法だものね。

ケンジ : そのとおり。この間オンラインの雑誌で記事を見つけたんだけど、それで目からうろこが落ちたよ。自転車が健康に与えるいい影響についてたくさんの研究があると書いてあったんだ。

サラ : (1) 例えば？

ケンジ : うーん、自転車のおかげで心臓病とかいくつかほかの病気のリスクを軽減できるっていう研究結果が出ているのは知ってた？

- サラ : でもそんなのはだいたいどんな種類の運動についてもいえることじゃない？
- ケンジ : そうなんだけど、自転車は健康にいいだけじゃないんだ。お金も節約できるよ。
- サラ : それはバスとか地下鉄にお金を払わなくていいからってこと？
- ケンジ : そう。ていうかさ、1 年もあれば、新しく買った自転車の ② もとは取れる と思うんだよね。
- サラ : それはすごい！ でも街を移動するには少しスピードが遅いんじゃない？
- ケンジ : そんなことはない。地下鉄とか電車の駅までと駅から歩く時間と、待ち時間、ラッシュ時のバスの遅さとかを考えれば、自転車は実は早いんじゃないかと思うよ。
- サラ : それじゃあ、自転車は健康的で節約もできて移動も早かってことね！ そんなの絶対に気に入るじゃない！
- ケンジ : そのとおり！ それに自転車は楽しいだろ。君も自転車を買ったらどう？
- サラ : 確かにそうね。でも日本で自転車に乗るってなると少し緊張しちゃうだろうな。
- ケンジ : なんで？
- サラ : だって日本とイギリスとだと自転車道の規則が違うと思うもの。
- ケンジ : まあ、イギリスのことは知らないけど、日本の自転車の規則はこの間の 6 月に改正されたよ。いまは結構厳しくなってるから、慣れないといけなね。
- サラ : そうなの？ どうして？
- ケンジ : 毎年、自転車事故件数について政府が気をもんでいるからじゃないかな。
- サラ : そうなんだ。日本の道路は確かにかなり混んでるし、ここでは自転車はすべての世代の人に人気みたいだから、政府も人々の安全を守るために何かしないといけなないのかもね。
- ケンジ : そう、そうなんだよ。でも自転車使用者の多くは規制が ③ 十分に白黒がはっきりしていない と思ってるみたい。
- サラ : 本当？
- ケンジ : うん。特にいわゆる「安全基準違反」についてはね。
- サラ : それって何のこと？
- ケンジ : うーん、スマホを使ったりヘッドフォンをして音楽を聴いたり、傘を持ちながら自転車に乗ることとかかな。
- サラ : 何がいけないのかしら。
- ケンジ : うーん、個々の警察官がその都度臨機応変に決定する権限をもっているってことが問題なんだよね。人によってはそれが不公平だって感じるみたい。
- サラ : そんなに理不尽なこととは思えないけれど。そもそも、そういう違反をした場合の罰則ってどんなものなの？
- ケンジ : 14 歳以上の自転車使用者が 3 年のうちに 2 回以上違反した場合だと、交通安全のセミナーを受けなくちゃいけないって聞いたよ。1 日の大部分を取られちゃうし 5,000 円以上かかるみたい。



- サラ : あら, 私たち学生にとっては結構な額ね。君はそういうことをして捕まらないといいね。
- ケンジ : ほんとにそうだね。できるだけ安全運転するようにするよ。実は今日授業後にアパートの近くの自転車屋でヘルメットを買おうと思っているんだ。
- サラ : それは正解ね。一緒に行ってもいい?
- ケンジ : いいけど, 自転車もってないじゃん。
- サラ : ケンジの自転車のうしろに乗せてよ。
- ケンジ : ごめん, それは規則違反になっちゃうよ。それに僕の脚じゃ無理があるって。
- サラ : そうね, じゃあ私は地下鉄で行こうかな。
- ケンジ : よし。それじゃどっちが先につくか競争だ。

**解説**

(1)

**解答例**

For example / For instance / Like what

**問題文訳**

サラが(1)で使えたであろう同じような意味の 2 語の英熟語を文脈から考え, 答えよ。

下線部(1) such as の意味は「例えば」なので, 「例えば」の意味になる 2 語を答えればよい。よって for example や for instance が正解となる。また, 少し口語的にはなるが like what も正解となる。

such as の意味がわからない場合は, 文脈から意味を判断していく必要がある。下線部の直前でケンジは「自転車が健康に与えるよい影響についての研究がたくさんあった」と言っており, 下線部のあとで自転車が心臓病やその他の疾患のリスクを下げることに役立つと言っている。このことからサラがケンジの発言に対し具体例を示すことを促したことがわかる。よって such as は「例えば」や「具体的にはどういうこと?」のような意味だったということが推測できる。

(2)

**解答例**

(例 1) it costs less money than he would have had to spend on public transport fares.

(例 2) saving of public transportation fares compensates for the cost of bicycle.

**問題文訳**

15 語以下の英語を書き加えて以下の文を完成させ, ケンジが(2)で「それ自身で払える」と言ったことの意味するところを説明せよ。

pay for itself を直訳すると「それ自身で払える」となる。これでは意味がわかりにくいので、前後の文脈から意味を考える必要がある。今回の問題で見なくてはいけないのは、ケンジの True, but cycling ~. のセリフから下線部を含むセリフまでである。(それ以前は自転車の健康に与える影響について、それ以後は自転車通学にかかる時間について話しており、内容がまったく関係ないので無視してよい。)

ここでケンジは自転車がお財布にも優しいということを訴えている。ケンジの 8 番目のセリフとサラの 9 番目のセリフの内容をまとめると、自転車はバス代や地下鉄代を払わなくて済むために節約になる、ということだった。この内容を受けてケンジはさらに「1 年もあればこの新しい自転車で、自転車代を払うくらいになると思う」と言ったのだ。(itself は自転車を指しているわけだから、this new bicycle should pay for itself は「この新しい自転車は、それ(新しい自転車)を買うためにかかった費用を、それ(新しい自転車)自身で払うことができるはずだ」と訳すことができる。)つまり、自転車を 1 度買ってしまえばバスや地下鉄にかかる交通費が浮くために、1 年もあれば、「1 年間にかかるバス・地下鉄代  $\geq$  新しい自転車を買うのにかかった費用」となる、と言っているのだ。

このバス・地下鉄代と自転車を買うのにかかる費用の関係性を英語で示せばよい。

・ it costs less money than he would have had to spend on public transport fares.

「自転車を買わなかった場合に払わなくてはならなかったであろう公共交通費より、自転車をかう費用のほうが安い」

・ it would cost more if he were to pay for public transport for a year.

「公共交通費を 1 年も払うとしたら、自転車を買うよりもお金がかかるだろう。」

・ saving of public transportation fares compensates for the cost of bicycle.

「交通費を節約した分で自転車代を賄える」

などが答えとなる。1 つ目の解答例は「自転車のほうが安い」という点から説明しており、2 つ目は「交通機関のほうが高い」ということを述べている。どちらも実質的には同じことを述べている。3 つ目は最も端的に下線部を言い換えていて望ましいが、やや思いつきにくいかもしれない。

(3)

**解答例**

not so clearly defined

**問題文訳**

5 語以下の英単語を加えて文を完成させ、ケンジが(3)「白黒はっきりしていない」で意味したことを説明せよ。

日本語でも「白黒はっきりさせる」などの言葉があることから意味が容易に推測できたはずだ。「白黒十分でない」とは「十分はっきりしていない」というような意味である。「はっきりしていない」をより明確に定義するために文脈をみていこう。

ケンジのセリフ a lot of cyclists feel that the regulations are not sufficiently black and white を補足してい

るのが especially when it comes to the so-called “safety violations”以下である。“safety violations”とは「ながら」運転のようなことだと説明があったあと、その規制に関する問題点を挙げている。“safety violations”に関しては、個々の警察官がその場その場で臨機応変な決定をする権限をもっており、評価が不平等になっていることが問題だとケンジは述べる。この臨機応変な対応こそが the regulations are not sufficiently black and white の内容なのである。「規制の基準が十分はっきり定義されていない」などの意味に捉えなおして 5 語以下の英語に直していく。

The regulations are not so clearly defined.

The regulations are not too/very clear. (許容解)

The regulations are not defined clearly enough.

などが正解。

(4) 正解は (A) of (B) in (C) with (D) on (E) against

問題文訳

(A)から(E)に以下のリストにある最も適切な単語を入れよ。同じ語は1度しか使ってはならない。

- (A) short of breath で「息をきらして」という意味。(out of breath も同じ意味。) これはイディオムなので覚えておいてほしい。
- (B) in (elementary) school で「(小学校に) 在学中で」という意味。
- (C) stick to / with A で「Aにくっつく, Aを続ける, やり通す」などの意味。to や with は付着するイメージの前置詞なので「くっつく」というような意味のイディオムで用いられることが多い。例えば keep abreast with A で「Aに通じている」(最新の情報に遅れずにくっついていく) という意味になる。
- (D) on a case-by-case basis で「個別的に, 臨機応変に」という意味になる。
- (E) サラがケンジの自転車に2人乗りしたいといったのに対しケンジが断っているのは規則に反しているからだろうと想像がつかだろう。よって(E)に入るのは against。against the regulations で「規制違反」。

第4問はイディオムの基本問題だったのですべて覚えて欲しい。

(5) 正解は b f

問題文訳

文章によると、以下のどの2つが正しいであろうか？

- a ケンジとサラは近いうちに新しい規制が改正されるだろうと考えている。
- b ケンジとサラは自転車屋で合流しようと考えている。
- c ケンジは自転車に関する新しい規制のことを知らない。
- d ケンジは交通安全セミナーに参加したい。

- e サラは名古屋大学で 1 年以上勉強している。
- f サラは日本で自転車に乗ったことがない。
- a ケンジの 13 番目のセリフで「日本の自転車に関する規則がこの間の 6 月に改正された」と言っている。規制はこのあと改正されるのではなく、改正済みである。
- b ケンジは最後から 4 番目のセリフで「放課後ヘルメットを買いに自転車屋さんに行く」と言い、それにサラもついていくと言った。サラはケンジの自転車に 2 人乗りしようとしたがそれは規制違反なのでケンジに断られてしまい、地下鉄で自転車屋さんまで行くことにした。ケンジの最後のセリフ we'll see who gets there first での there は自転車屋さんを指しているのであり、「自転車屋さんまでどちらが先につくかな」という意味である。以上から、ケンジは自転車で、サラは地下鉄で自転車屋に向かい、自転車屋で合流しようとしていることがわかる。よって b は正解。
- c 自転車に関する新しい規制についてケンジがサラに説明していることからこれは間違い。
- d ケンジの最後から 5 番目のセリフで安全セミナーについて触れている。「安全セミナーは規制違反を 3 年間で 2 回以上してしまった場合に参加しなくてはならないし、1 日の大半かかってしまい、5000 円もかかる」というケンジの説明に対しサラは「そういうこと(規制違反)をして捕まらないといいわね(安全セミナーに引っかけられないといいわね)」と言い、それを受けケンジは So do I「僕もそうだと思いたい(安全セミナーは受けたくない)」と言っている。このことからケンジは安全セミナーに参加したくないことが伺える。
- e 会話が始まる前の説明文に、サラはイギリスから名古屋大学に 1 年間留学しにきている学生だとあることから、サラの留学期間は 1 年間であり、1 年以上勉強していないし、する予定もないことがわかる。
- f サラの 12 番目のセリフで「でも日本で自転車に乗るってなると少し緊張しちゃうだろうな」とある。if I should ever という表現からもわかるようにサラは日本ではまだ自転車に乗ったことがないことがわかる。

(6)

**解答例**

- (例 1) You can spend your time freely sleeping and reading while you are using public transport.
- (例 2) You are less likely to be troubled by weather unless in an extreme situation.
- (例 3) There would be less accidents because public transportations are driven by professionals.

**問題文訳**

ケンジは自転車での移動に乗り気だが、公共の移動手段を使うことにも利点はある。公共の交通手段の考えられる 2 つの利点について、1 点につき 10 から 20 の英単語を使って説明せよ。完全な文章で答えよ。

公共の移動手段を使うメリットは例えば

- ・ 交通機関に乗っている間眠ったり読書をしたり，自由な使い方ができる。
- ・ よほどのことがない限り天候に左右されない。
- ・ 事故が減る

などが挙げられる。

それぞれを英訳すると

- ・ You can spend your time freely sleeping and reading while you are using public transport.
- ・ You are less likely to be troubled by weather unless in an extreme situation.
- ・ There would be less accidents because public transportations are driven by professionals.

などとなる。

#### 表現

short of breath 「息をきらす」

stick with A 「Aにくっつく，続ける」

reckon A 「Aを考える，計算する」

revise A 「Aを見直す，（法律などを）改正する」

chunk 「大きい塊」

（井戸雅也，吉田涼佑）

# 2016 年度 名古屋大学 前期 英語

## IV

出題範囲	和文英訳
難易度	★★★★★
所要時間	20分
傾向と対策	日本語の構造自体は複雑ではないが、英語に訳すのが難しい言葉や表現が多く、苦勞した人も多いただろう。もとの言葉を読み換えたり、うまく工夫して解答を導いたりすることが求められる問題であった。

### 解答例

(1)

(例 1) A long-term campaign has begun in order to make Okinawa the prefecture with the longest average life expectancy in Japan once again in the next 25 years.

(例 2) Okinawa Prefecture has started a long-term movement to make its average lifespan the longest in Japan again within 25 years.

(2)

(例 1) Many organizations, along with the prefecture, have called for local residents to improve their health since 2000, when the average male lifespan in Okinawa dropped from 1st to 26th in Japan.

(例 2) In 2000, the average life expectancy of males in Okinawa fell from 1st to 26th in Japan, and since then, a lot of organizations, with the prefecture taking the lead, have been encouraging the citizens of the prefecture to become healthier.

(3)

(例 1) It is said that the main reason for the high death rate is that the number of people suffering from lifestyle diseases has grown as more and more working population has become obese because of the westernization of food habits and the motorization.

(例 2) The main reason of the high mortality rate is said to be the increase in the number of people suffering from lifestyle-related diseases along with the increase of the obesity rate of working population due to the westernized diet and the motorized society.

解説

(1)

文の大きな構造としては 2 パターンの可能性が考えられる。下線部の日本語に素直に従って「息の長い活動」を主語にするパターン（例 1）と、「息の長い活動」を進める主体、つまり「沖縄県」を主語にするパターン（例 2）である。

まず（例 1）について解説していく。文の大きな構造を見ると、「息の長い活動が始まっている」が主語と述部（動詞）にあたるもので、まず英語でこの部分を作ってから、あとに残りの部分をつけ加えていく。

「息の長い活動」について、「息の長い」を「期間の長い」などに読み換え、long-term などとするとよい。また「活動」についてはいろいろな訳が考えられるが、campaign や movement などを用いることができる。普通「活動」と見ると、activity を入れたがる人がいるが、この文で activity を使うのは不自然である。activity は人が実際に体を動かすなどして参加するニュアンスがあり、イベント的な意味合いが含まれる。ここでの活動はそのようなものではなく、沖縄県が主体となって推進している社会的な活動であるため、activity は避けたほうがよい。

「始まっている」については現在完了形を用いた表現がよいだろう。なぜなら、この活動は過去のある 1 時点から始められ、現在もまだ継続されていると考えるのが妥当であるからだ。has begun や has started などを用いることができる。

以上までで、「息の長い活動が始まっている」は A long-term campaign has begun などとなる。

次に残りの部分「25 年後までに沖縄県の平均寿命を日本一に復活させるという目標に向け」を英訳していく。この部分は、「～に復活させるために」と読みかえることができる。「～のために」に対する訳は普通に to でつなげてもいいし、in order to / so as to としてよりフォーマルな形にしてもよい。

「～に復活させる」では「A を B にする」という構文を見出すことができるので、make A B という形で英訳していくとよいだろう。素直に A に「沖縄県の平均寿命」、B に「日本一」の部分をあてて、make average life expectancy [average lifespan] of Okinawa Prefecture the longest in Japan と英訳することもできるし、1 個目の解答例のように A に「沖縄県」、B に「日本一平均寿命が長い県」にして make Okinawa the prefecture with the longest average life expectancy in Japan としてもよい。

さらに、「復活」というニュアンスを出すために、「もう 1 度、再び」という意味をもつ again や once again を make A B 構文のあとに加えるとよいだろう。

最後に「25 年後までに」という部分は、直訳で by 25 years later としてしまう人がいるかもしれないが、「ある時期までに」というニュアンスである by と「～よりあとのある一時点」という later が共存することはできないので、ここは「25 年以内に」と読みかえて within 25 years や in the next 25 years とするとよい。

以上を組み合わせると（例 1）のようなパターンができあがる。

（例 2）は活動を進める「沖縄県」を主体として英文を構成するパターンである。この場合も（例 1）と大体

似ている。主語＋動詞＋目的語の順で Okinawa Prefecture has started a long-term movement と構成することができる。そのあとは(in order) to make A B の形で同じようにつなげていけばよい。ここで A は(例 1)とは違い、主体である沖縄県が作用する対象が「平均寿命」であるので、A に its average life span をあてる。B には「日本一」を表わす the longest in Japan を入れる。そのあとは(例 1)と同じだ。以上を組み合わせると(例 2)となる。

(2)

下線部の文は、前半の「2000 年、～転落して以降」と後半の「県を先頭に～呼び掛けた。」の大きく 2 つに分けられる。英訳としては、前半を先にもってくるパターン(例 2)と後半を先にもってくるパターン(例 1)の 2 種類が考えられるだろう。どちらも前半と後半の訳で大きな差はなく、つなげ方が変わるだけである。

まず前半の部分を訳していく。「男性の平均寿命が全国 1 位から 26 位に転落した」の部分で、「男性の平均寿命」は the average life expectancy of males (in Okinawa) や the average male lifespan (in Okinawa) などが考えられる。ここで述べられている男性の平均寿命は沖縄県のものであるから、文脈をわかりやすくするために in Okinawa をつけ加えてもよいだろう。次に「全国 1 位から 26 位に転落した」の「転落」の訳としては fall や drop などの動詞を用いることができる。「全国 1 位」は 1st in Japan くらいでよいだろう。これらを用いて「全国 1 位から 26 位に転落した」は fell [dropped] from 1st to 26th in Japan と訳すことができる。したがって「男性の平均寿命が全国 1 位から 26 位に転落した」の訳としては the average male lifespan in Okinawa fell from 1st to 26th in Japan などになる(時制は「転落した」という過去の一時点で起きたことを表す過去形を用いることに注意)。「2000 年」の訳に関しては、前半を先にもってくる場合は in 2000 と訳して文頭にもってくとよいだろう(例 2)。前半をうしろにもってくる場合は since 2000, when the average ～ というふうに訳すとつながりがよくなる(例 1)。

次に後半である。「多くの団体」がこの文の主語になっていることに注意しよう。「多くの団体」の訳としては単純に many [a lot of] organizations でよいだろう。「団体」で group を使う人もいるが、group はしばしば「自然に集まった集団」を指すときに用い、organization は「専門的なことを扱う大規模な組織」というニュアンスがある。ここでは文脈上 organization を用いるのが妥当である。次に、「県を先頭に」を訳するのが少し難しいかもしれない。「県」自体は普通に the prefecture でよいだろう。「地方自治体」という意味の local authority を使って少しフォーマルな感じを出してもよい。「A を先頭に」という訳は with A taking the lead という訳が使える。この訳が思いつかない人は「先頭に」を「～とともに」というふう読み換えて、along with や not only ~ but also ~ などで訳してもよい。「県民に健康づくりを呼び掛けた」も少し訳が難しいところである。「呼び掛ける」の訳としては、「A に V するよう呼び掛ける」という意味の call for A to V というイディオムや、文脈上「推奨する」と読み替えて encourage などを用いることができる。動詞の時制については、下線部の文を見る



と「～以降、～を呼び掛けた」という形になっており、呼び掛けが現在までに及んでいることが読み取れるので、ここは現在完了形や、あるいはいまでも呼び掛け続けていると解釈して現在完了進行形を用いる。「県民」は「地元住民」という意味の local residents や、直訳風に the citizens of the prefecture としてもよい。最後に「健康づくり」の訳について、「健康づくり」というのはつまるところ「健康を促進すること、健康になること」といった意味であるので、improve [promote] their health や become healthier など、適切な形に変えてつなげるとよい。

以上をまとめると、後半部分は many organizations, along with the prefecture, have called for local residents to improve their health や a lot of organizations, with the prefecture taking the lead, have been encouraging the citizens of the prefecture to become healthier などと訳することができる。

最後に、前半と後半のつなげ方としては、前後半の境にある「以降」を since を用いて訳し、後半を先にもってくる場合は前述したとおりである。前半を先にもってくる場合は、(例2)のように、前半を訳したあと、「～転落した、そしてそれ以降」という形で、and since then でつなげるとよい。

(3)

下線部の文を簡単にすると、「死亡率の高さはAが主な原因といわれる」である。「～といわれる」に対応する英文としては It is said that ～, ～ is said to ～などの構文を使うことができる。また、「死亡率」は death rate や mortality rate などの訳がある。よって「死亡率の高さはAが主な原因といわれる」は It is said that the main reason for the high death rate is A. / The main reason of the high mortality rate is said to be A.となる。それぞれ1個目の解答例と2個目の解答例に対応している。

次にAの部分の訳出し、つなげていく。Aの部分ではいくつか英語にするのが難しい所があるので、まずはそれらを見ていく。「食の欧米化」の「食」は「食習慣」ととらえることができ、westernization of food habits や westernized diet となる。「車社会」に対しては motorized society や、「車社会化」を意味する motorization などが使える。いい訳が思いつかない人はシンプルに car society としても大きな問題にはならないだろう。「勤労者世代」は「労働人口」を意味する working population でその意味を訳出できる。「肥満率」は the obesity rate だ。「肥満率が上昇」というところに着目して more and more 名詞 becomes obese という形にしてもよい。「生活習慣病」は lifestyle diseases, lifestyle-related diseases である。

以上を用いて実際にAの部分を組み立てていく。「～の影響で」は「～が原因で」と読み換えて、due to や because of を用いることができる。「～が上昇し、それに伴い～」は ～ (along) with the increase of ～ や ～ as more and more ～ などの形につなげることができる。「生活習慣病が増加した」とはつまり「生活習慣病を患う人が増加した」ということを意味しているので、「生活習慣病」に対応する訳出としては the number of people suffering from lifestyle diseases とするとよい。

注意しておきたいのは、(例2)の said to be は A is said to B というふうに、B の前に挿入して使う形であるので、(例1)と(例2)のどちらにおいても A は is につながる形で文を構築しなければならない。(例1)のように that 以降を完全文の語順にしてもよいし、(例2)のように名詞から始めてもよい。

以上をまとめて解答を組み立てよう。

(松永尚也, 山藤孝介)